

A-145 日本における栄養調査(第3報)地域別からみた調査内容

岡山女大 ○中野典子 市短大服部イナ 林短大後藤福代 京短大野知子
子名市女短大石川昌子 名女大熊沢昭子 岐阜女短大吉川固子 磯辺しづ子

目的 日本における栄養調査の変遷の過程を知るために、年次推移にとまらうし、
CNCIによる各種の分類からみた出現数を明らかにしてきた。本報においては地
域集団からみた実態及び特定問題別の調査内容についての説明を試みる。

方法 研究資料は医学中央雑誌からリストアップした110誌中約1000編の文献
である。この中から、地域集団が対象となっている260編について、大都市、中小都市、
農山村、農村、漁村、山村僻地、離島、特殊環境、その他の9区分に分類し、年次別に地
区別、調査期間、調査方法、及び併用調査の内容などについて検討した。

結果 地域集団からみた実態及び特定問題別調査においては、農村が対象となったもの
が77編で一番多く、1947年以降はほぼ毎年取り上げられてきている。特殊環境にお
いては1984年に調査がされており、山村僻地の調査では、1941年に4編出現して
いる。果別地域分布は北海道から沖縄までわけており、愛知、鹿児島、東京、北海道、
長崎の順に調査数が多い。調査時期は7月と8月、調査期間は1日間行われたものが
最も多くみられた。地域集団の対象の多くは世帯を単位として分析されており、さらに個
人にスポットを当てた報告もみられた。栄養摂取状況調査と共に行われたものには、身体
状況、生活時間、食形態などがあり、これらの中には共同研究による各専門領域からのア
プローチがなされており、このことは地域集団を対象とした調査の特色と考えられる。